

心に残る文化財子ども塾 松江市立佐太小学校

1. 活動の概要

7月1日（金）、松江市鹿島町佐陀本郷にある市立佐太小学校で、6年生19人を対象として『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。

はじめに、古代出雲歴史博物館職員が、校区にある志谷奥遺跡をはじめ出雲市の荒神谷遺跡や雲南市の加茂岩倉遺跡で見つかった弥生時代の銅剣・銅鐸・銅矛の紹介をしました。続いて、奈良時代に大仏が造られた背景や造り方を説明しました。

次に、大仏パネルを組み立てました。子どもたちは、協力してパネルを並べ、14分24秒で完成しました。完成した大仏パネルでは開眼供養の再現を行いました。また、大仏パネルの上を歩いたり、二階から全体像を眺めたりして、実物大の大仏の大きさを実感していました。そのあと、大仏パネルの上で思い思いのポーズをとって記念撮影をしました。暑い日でしたが、クラス全員が団結して大仏を完成させて、その大きさを実感した一日となりました。

2. 活動の様子



「校区にある志谷奥遺跡から青銅器が...」



「このパネルはどこのパーツかな？」



「大仏の開眼供養です」



「銅剣は金色できれいだね」

3. 活動を終えて

1) 児童の皆さんから

- 大仏造りを通して、クラスのみennaと協力したの楽しかった。
- 大仏の大きさがよく分かって楽しかった。
- 昔の人は長い年月をかけて大仏を造って、すごいと思った。
- 銅剣がけっこうとがっていて、意外だった
- 遺跡の発掘を試みたい。

2) 担任の先生から

- 剣の模鑄造に触ったり、大きな大仏を自分たちで協力して造ったりする体験をすることで、教科書の中の知識が実感を伴った理解に繋がったと思います。

3) 古代出雲歴史博物館から

奈良の大仏と同じ大きさの大仏パネルを組み立てるのは大変な作業ですが、児童の皆さんは一致団結して手際よく組み立てました。組み立てた大仏パネルは思っていたより大きく、昔の人の大変さやすごさを実感していました。

また、授業の準備や片付けを児童の皆さんや先生方に手伝っていただきました。お陰で準備も片付けもスムーズに行うことができました。大仏パネルの組み立てや準備や片付けは、久しぶりのクラスでの共同作業で、楽しい思い出になったようです。